

「フクシマを忘れない！原発ゼロへ和歌山アクション2016」集会アピール（案）

私たちは、本日、原発事故被災者・避難者の苦しみに心を寄せ、原発再稼働を許さず、原発をなくすため、「フクシマを忘れない！原発ゼロへ和歌山アクション2016」を成功させました。

福島第一原発事故から5年がたちました。福島では、未だに10万人近くの人が避難生活を強いられ、住み慣れた家や故郷を奪われたままです。震災が原因で亡くなった人は、地震や津波で亡くなった人よりも多くなっています。未だに汚染水対策が成功しておらず、また、小児甲状腺がんが年々増え続けるなど、福島は依然として深刻な事態が続いています。しかし、安倍政権は福島の実態を無視するかのごとく、被災地の復興・復旧や被災者への救済を疎かにし、反対に、原発再稼働や海外輸出にむけて動きを強めています。

川内原発1号機に続き、高浜原発3・4号機が原子力規制委員会の新規制基準に「適合」したとして再稼働されました。このようななか、2月29日、高浜4号機が発送電作業中のトラブルにより緊急停止しました。原子力規制委員会の審査が通った原発でのトラブルは川内原発に続くものです。こうしたトラブルは、安全よりも利益を優先させた安倍政権のエネルギー基本計画がまねいたもので、新規制基準の安全性に疑問を投げかけるものです。

2014年5月の福井地方裁判所の「大飯原発運転差し止め」判決に続き、2016年3月9日、大津地方裁判所は、高浜原発3・4号機の運転差し止めの仮処分を決定しました。私たちを大いに勇気づける画期的判決です。日本世論調査会の調査でも、原発再稼働に反対の声が58%と賛成の37%を上回っています。また、脱原発をめざす首長会議は37都道府県107人まで達するなど、原発ゼロをめざす運動は全国的に広がっています。

日本の原発は、2013年9月から2015年8月の川内原発再稼働まで一基も稼働していませんでしたが、そのことで電力不足になったことはありません。原発なしでもやつていけることを証明するものです。

和歌山県は、電力会社の原発立地計画を反対運動ですべて阻止してきました。私たちは、その運動に確信をもち、使用済み核燃料の中間貯蔵計画についても反対していきます。

みなさん、福島第一原発のような事故を二度と起こしてはなりません。

原発は人類とは共存できません。

原発を日本から、また世界からなくし、再生可能エネルギーへの転換を求めて運動を大きく広げていこうではありませんか。

2016年3月13日

「フクシマを忘れない！原発ゼロへ 和歌山アクション2016」